

KINGCA WEEK 2024 に参加して

大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 萩隆臣

この度、2024年9月25日～27日の3日間、日本胃癌学会より参加助成をいただき KINGCA WEEK 2024 に参加させていただきました。学会は、韓国ソウル市内のロッテホテルソウルで行われ、例年30ヵ国以上から1,000人近くの参加者が訪れております。日本の胃癌学会よりは小規模でしたが、国際学会という名の通り海外からの参加者が多く、セッションも全て英語で国際的な視点を持った活発な議論がなされていました。国際学会ならではの雰囲気を感じることが出来、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

学会全体を通じて、韓国における胃癌治療の急速な進展を実感しました。特に、ロボット支援手術や腹腔鏡手術といった先進的な手術技術の普及が進んでおり、各施設での臨床経験の蓄積も非常に豊富であることが印象的でした。また、韓国では臓器別に特化した診療体制が確立されており、若手医師が早い段階から多くの手術を経験できる仕組みが整っています。こうした体制が、医療技術の迅速な普及と臨床研究の進展を支えていると感じました。

また、他の発表やセッションを通して得た情報も多岐にわたりますが、特に臨床試験の進め方や症例集積の方法において、日本と韓国の違いが際立っていることがわかりました。韓国の医療機関は大規模な協力体制を敷いており、臨床試験のエビデンスを迅速に構築するための取り組みが進んでいます。例えば、KLASSシリーズのように、複数の大規模病院が協力して大量の症例データを集積することで、質の高い研究成果を迅速に発表する姿勢は非常に印象的でした。

今回のKINGCA2024では、私はPlenary oral presentationセッションにおいて、『Intraoperative corticosteroids administration for clinical stage II or III gastric cancer: a multicenter, randomized, open-label, phase II/III trial』という演題を発表させていただきました。本発表は、大阪大学消化器外科およびその関連施設

による研究グループで行われた多施設共同ランダム化試験の結果を報告したものであり、術直前のステロイド投与が胃癌患者の術後予後の改善に影響を及ぼすかを検討したものです。大変光栄なことに、本発表に対し、Best Oral Presentation Awardを受賞させていただきました。今回の受賞は、これまでの研究成果が国際的にも評価されたことを意味するもので大変嬉しく思います。同時に、発表を通していただいた多くの質問やコメントから新たな視点を得ることができ、今後の研究活動に向けた貴重なフィードバックを得ることができました。

この度は素晴らしい経験の機会を与えて頂き、日本胃癌学会理事長の掛地吉弘先生、国際委員会委員長の竹内裕也先生をはじめとした委員の皆様から心から御礼申し上げます。今後も引き続き、日本胃癌学会からの KINGA WEEK への派遣が継続し、一人でも多くの若手学会員が国際感覚を身につける機会となることを心から願っております。



KINGCA WEEK 2024 会場にて